

# 初恋を思うべし

南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館

NO.3 (2016年4月1日号)

みなさんこんにちは。いかがお過ごしですか。

犬養万葉記念館は犬養万葉ファンや観光客だけでなく、南都明日香ふれあいセンターとして、明日香村村民の方々の利用も少しずつ増えてきました。小さなスペースですが「明日香村の方々の展示コーナー」も設け、芸術・文化の匠のご紹介もいたしております。つばいちホールでは、館長万葉講座や、犬養万葉100首講座。また、脇田名誉館長企画のチコンキカフェ(蓄音機を楽しむ会)も定着して参りました。昨秋、グランドピアノを搬入しましたが、今年は奈良県主催のミュージックフェストならの開催会場に決定し、積極的に音楽発信地としての役目も果たせそうです。犬養万葉の顕彰と明日香村での憩いの場所として、みなさんに親しんで戴けますよう、今後もスタッフ一同日々試行錯誤しております。また、ご意見やご提案もお寄せくださいませ。



記念館の看板が新しくなりました！

建設当初に取り付けられた看板が、長年の風雨に晒され、「犬養万葉記念館」の案内表示がわかりにくくなってしまい、新たな設置を切望していました。ようやく希望が叶い、新しくなりました。揮毫は犬養先生とも生前お親しかった明日香村文化協会初代会長の故垣内正義氏のご令室で、書道家の垣内飛翠様が書いてくださいました。入魂の文字に感謝と喜びでいっぱいです。これで犬養万葉記念館がわかりやすくなりました。

## 記念館歳時記



犬養先生の教え子でもある木田隆夫さんは、兵庫県川西市のご自宅の一角に「猪名川万葉植物園」を開設しておられます。昨年、記念館へ「秋の七草」をはじめ、万葉植物を寄贈して下さった中で、柿本人麻呂の歌で有名な「はまゆう」は、記念館の生け垣に植えました。みるみる葉が増えてきました。百重なすかも。



「あすカルビー」を召し上がれ！明日香村のいちご、あすカルビーは色と光沢が宝石のようで名づけられたと言われている糖度の高いいちごです。つばいちカフェでもお召し上がりいただけます。いちごサンデー200円です。

## 犬養先生の碑



明日香村の中に15基ある犬養万葉歌碑も、村の景色の変化とともに雰囲気も変化してきました。この「飛鳥川」の碑も清楚な雪柳に囲まれていた背景が、今や菜の花のあでやかな「黄色」です。

⑦9 今日もかも 明日香の川の  
夕さらず かはづ鳴く瀬の  
清けくあるらむ (巻3-356)

## 2016年の予定

- 岡本館長万葉講座：毎月1回／4月16日(土)・5月9日(月)
- 城山副館長講座：2ヶ月に1回／5月21日(土)
- チコンキカフェ：6月26日(日)・9月18日(日)・12月18日(日)
- 万葉の歌音楽祭(詳細未定)
- 万葉植物野外講座(馬場吉久氏)：6月・9月
- 万葉の明日香路に月を観る会：9月15日(木)
- ミュージックフェストなら会場：6月11日(土)・6月24日(木)

※広報あすかで毎月お知らせをしています。  
詳細は、ホームページでご確認いただくか、  
直接お問い合わせください。



昭和54(1979)年12月4日、昭和天皇は明日香村に行幸し、甘樫丘の上で犬養孝先生が御進講された。侍従長の『入江相政日記 第五巻』(朝日新聞社、1991年)には、この出来事を次のように記している。奈良ホテルを「九時御発。お上お一方。甘樫が丘、犬養節も非常によかった。霨がこめて耳梨[成]が見えぬ。千三百年の昔と今とをへだてる霨といふことになる。」

犬養先生は丘の上で、陛下をお迎えし、午前9時51分から10時15分まで24分間、朗唱を加えて説明されることになっていた。陛下は真新しい道を車で登ってこられた。先生は「ようこそお出下さいました。」という言葉を用意していたが、陛下は先に「脚の痛みはいかが。」と言われ恐縮してしまった。

この年の1月12日、先生は宮中の歌会始に召人として招かれ、勅題が「丘」であったので、

大王(おほきみ)の 国見立たしし

この丘に 愛(かな)しきかもよ さわらびの萌(も)ゆ  
という歌を献呈した。前日から右脚の激しい神経痛に悩まされたため、当日は車椅子の使用となった。先生は回復していたので固辞したが、陛下の思召(おしめ)しですと言われ使用せざるをえなかった。『入江相政日記 第五巻』に、「召人の犬養さん、神経痛で車椅子で気の毒だった。」とある。テレビ中継やニュースを見ていた者は、先生の車椅子姿に驚いた。

さて、先生は説明用に5首の万葉歌を準備して宮内庁に届けていた。当日、陛下はそのプリントを持っておられなかった。先生は持参していたプリントを直接手渡ししてしまった。本来なら侍従長を介して渡すべきものであったが、侍従長からはずっと離れた場所にいたため、そうせざるをえなかった。行幸前に侍従長から「先生とお二人だけにして、わたしたちは、ずうとかなたにいますから、存分にお話下さって、歌もいつものように歌ってさしあげて下さい。陛下はそれを楽しみにしていらっしゃいますから。」という電話があった(「風のようにやすらかに」『偉大なる昭和天皇』UCC上島珈琲、1998年。所収『萬葉とともに 続』犬養万葉顕彰会、1994年)。

舒明天皇の香具山の国見歌(巻1-2)から説明を始めた。昭和51(1976)年1月15日に和田池にユリカモメの大群が飛来したため、養魚を守るべく銃声で追い払ったことを「おっぱらっちゃったんでございますよ。」と東京弁で話すと、陛下は笑われた。そして万葉歌を共に朗唱された。陛下は身を乗り出すようにして聴かれ、衣服が触れんばかりになったので、先生は少しずつ脚を丘の端の方へと動かした。「丘から落ちやしないかと気が気じゃなかったよ。」と、後日私に語った。

さらに説明のため藤原宮の方向に視線を移し、志貴皇子の古都回想の歌(巻1-51)、召人歌に関連して甘樫丘周辺にはワラビがことに多いので、同じく志貴皇子のサワラビの歌(巻8-1418)を説明朗唱した。陛下も天真爛漫に斉唱された。そして真神の原、飛鳥浄御原宮跡を指さして、最後に天武天皇と藤原夫人(ふにん)の雪の日の贈答歌(巻2-103・104)の説明朗唱となった。先生は藤原夫人のことを何と説明するか思案したが、陛下は歴史をよく御存じなので、「奥さんのひとり」と言うことにした。香淳皇后は腰椎を骨折されて以来歩行が少し御不自由になられたので、甘樫丘には同行されなかった。奈良ホテルで同時刻に、先生の『万葉の心』(テイチク)のカセットテープ「甘樫丘にて」を聴かれていたという。先生が天武天皇と藤原夫人の贈答歌を選ばれたのは、両陛下のことを思われたからである。

ひと通り説明が終って時計をちらりと見ると、あと4分あったので、最後に陛下の御下問に答えた。「さきほどの説明の和田池のヨウギョとは何か」と問われたので、「養魚」であると説明すると陛下は納得され、思い出し笑いをされた。その時のことを、「天皇さんはもう一度笑われた。」と、先生は笑いながら私に語ったことがある。

当日の夜、先生は侍従長に電話して、プリントを陛下に直接手渡したこと、東京弁の俗語を使ってしまったことの非礼を詫言した。「陛下は大変お喜びだったので、気になさることはありませんよ。」との返事であった。

翌年正月に、天皇は次のような歌を詠まれた。

甘樫丘にて 犬養孝古歌を朗詠す

丘に立ち 歌をききつつ

遠つおやの しろしめしたる 世をしりのびぬ

後日談を紹介しよう。昭和56(1981)年の第32回全国植樹祭で両陛下は奈良県に行幸啓された。5月22日に神武天皇陵を参拝し、吉野の竹林院群芳園新館に宿泊。23日午後には春日奥山、東大寺を巡り、奈良ホテルに宿泊。翌日、午前に飛火野の鹿寄せを御覧になり、午後には平城宮跡で植栽を終えて、法華寺をあわただしく訪れ、京都經由で兵庫県に向かわれた。

5月23日は土曜日だった。午後6時半頃に私は犬養先生に頼まれていた講演筆録の校正を粉浜の自宅に届けに行く、私の顔を見るなり次のように語った。「たった今、入江侍従長から電話があつてね。陛下が侍従長に『犬養は来ていないのか。』と尋ねられたので、『今回はお呼びしていません。』と答えると、『そうか。』と残念そうに言われた。陛下のお気持ちをお伝えておきます。また、お会わせする機会をつくりたいと思っております。そんな電話だったよ。」

『入江相政日記 第六巻』(1991年)には、「四時三十七分ホテル御着。幣餞料伝達。相撲。千代強い。大変な不利から朝潮[汐]を内がけ見事。七時からホテルの御馳走。」とある。相撲が終ると、すぐに奈良ホテルから先生に電話されたのである。天皇は春日野か平城宮跡かで、犬養先生の奈良万葉の説明と朗唱を期待しておられたのであろう。

昭和60(1985)年の歌会始の勅題「旅」では、次のような御製を詠まれた。

遠つおやの しろしめしたる

大和路の 歴史をしりのび けふも旅ゆく

昭和天皇・入江侍従長・犬養先生にとって、甘樫丘のひと時は終生忘れられない思い出となった。

## 編集後記

★初恋通信3号をお届けします。記念館では通信のシリーズ「犬養先生を語る」を寄稿して頂いている山内英正氏に5月22日(日)からシリーズでなつかしい犬養先生の話をして頂くことになりました。万葉学者、教育者、明日香村名誉村民など、犬養先生の功績や人間関係やエピソードをいろんな角度から「犬養先生の人生」を偲んでみたいと思います。乞うご期待!

発行者：南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館

〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡1150 tel:0744-54-9300 fax:0744-54-4200

Eメール: info@inukai.nara.jp ウェブサイト: http://inukai.nara.jp

発行責任者：岡本三千代(館長)